

# あなたのココロとカラダ、 大切にするために 考えてみませんか？



## リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

(性と生殖に関する健康と権利)

リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは、「リプロダクティブ・ヘルス」(性と生殖に関する健康)と「リプロダクティブ・ライツ」(性と生殖に関する権利)を組み合わせることば。生涯を通じての健康を守るために、大切な人権として国際的に認められた考え方です。

※以下の文中では「リプロ・ヘルス/ライツ」と略します。

## これって正しい？ 誤り？

### ○×クイズで学ぶ健康問題

- 1 病気でなかったら、健康だと言える。
- 2 日本の女性の避妊実行率  
(避妊法を行っている割合)は、世界平均より低い。
- 3 子どものいない夫婦の約2割が  
不妊を心配したことがある。
- 4 10代の若者で、性感染症の  
クラミジアに感染している人は全国で約1,000人。
- 5 更年期障害は男性にも女性にもあり、  
その症状はかなり個人差がある。
- 6 男性の自殺者は女性の2倍である。

### 正解と解説

#### 1 → ×

リプロ・ヘルス/ライツの考え方では、健康を「身体的、精神的、社会的に良好な状態であること」ととらえます。単に病気でないだけでなく、あらゆる面で自分らしく心地よく生きられている状態が本当の健康です。

#### 2 → ○

国連の「世界人口白書2011」によると、15～49歳の「女性」の避妊実行率(近代的避妊法※)は、世界全体で56%、英国84%、米国73%、韓国70%。これに対して日本は44%。日本では、性行為にあたって男性が避妊に配慮しないことがまだまだ多く、結果、望まない妊娠の責任は女性に負わされます。日本で最も活用されている避妊法のコンドームは、100%完全な方法ではありません。男性が用いる方法だけでなく、低用量ピルなど女性が主導する避妊の実行率向上が求められます。

※近代的避妊法:避妊リング、ピル、注射、コンドームなど。

#### 3 → ×

国立社会保障・人口問題研究所の平成22年(2010年)の出生動向基本調査によると、初婚同士の夫婦で、子どものいない家庭の半数(52.2%)が不妊を心配したことがあるそうです。「結婚したら子どもができてあたりまえ」という世間の固定観念が、子どもを望まない人たちや子どものいない人たちの心を追いつめていることがあります。不妊の原因は男性・女性半々といわれています。子どもがいない人生の豊かな生き方を探りたいものです。

#### 4 → ×

厚生労働省の平成23年(2011年)の感染症発生病動向調査では、10代の男性649人、女性2,277人、計2,926人がクラミジアの感染があったと報告されています。日本の10代の性の健康は深刻な状況です。

#### 5 → ○

更年期障害とは、女性の場合、閉経前後のホルモン変動にともなう心身の変調のこと。憂うつ、寝つきが悪い、不眠、怒り、イライラ、くよくよ、めまい、吐き気、肩こり、腰痛、ほてり、のぼせなど、その症状は人によってさまざまです。男性にも更年期があり、性欲の減退に加えて、女性と同様の症状が現れることがあります。近年、性差医療が進み、「女性外来」や「男性外来」を開く医療機関が増えてきました。不安を感じたら、受診しましょう。

#### 6 → ○

平成23年(2011年)の全国の自殺者数は男性2万955人、女性9,696人。男性が女性の約2倍という傾向が以前から続いています。これは、男性が社会的ストレスにさらされやすいことがひとつの原因と思われ、性差に応じた健康のあり方を考えることが必要です。